

○神奈川県海老名市

高座クリーンセンターについて

【所見】

高座クリーンセンターは、海老名市、座間市、綾瀬市の3市のごみ処理を行う施設で、高座清掃施設組合により運営されている高座クリーンセンター環境プラザ内にある。クリーンセンターは排出した熱利用をしており、環境プラザ内の電力を賄っているほか、同組合が運営している隣接の温水プール施設や老人福祉センターに温水が利用されている。

クリーンセンターの建設費は175億円で、逆走式ストーカを採用している。逆走式にした理由は、通常より狭い場所での炉の建設となったためである。海老名市では、焼却灰の最終処分場を持っていないため、焼却灰はすべて溜サイクルに回されている。

また、個人のゴミの持ち込みは受け入れていない。紙や資源ごみは、3市がそれぞれ回収事業を行っている。

同施設は、クリーンセンターと環境プラザから構成されており、環境プラザでは環境への啓発事業を行うと同時に、多目的スタジオ、キッチン、工房、音楽室など6つの部屋を貸し出しており、市民に親しまれている。また、自治体との契約の中に、周辺環境への配慮が含まれているため、今後周辺の敷地を公園のように整備する予定もあるようだ。

隣接の屋内温水プールは、遊泳用の25mプール（水深1.1～1.3m）6コースのものと、子ども・幼児用プール（水深0.3～0.7m）と、歩行運動用の流水プール（水深1m）の3種類のプールの他、採暖室、サウナ、浴室、健康器具の置かれた健康ルーム、休憩室、キッズスペース、ミニショップがある。プールでは一般利用の他、スイミングクラスも開催されており、人口の多い地域であるだけに利用も非常に多いが、平成5年開設のため老朽化し始めており丁寧に対応しながらの運営であるという話もあった。

足利市のクリーンセンター計画の中で、私が個人的に心配していることの1つは温浴施設のプールがどれだけ活用されるのか、どのようなプールが好まれるのか、民間スイミングスクールがある中でどれだけの利用があるのかというものであった。人口は、海老名市約13万人、座間市約13万人、綾瀬市約8.5万人で合計約34.5万人。足利市約14万人、佐野市約12万人、館林市約7.5万人（足利市のクリーンセンター周辺の3市）で合計33.5万人と考えると、交通の便の悪さはあるものの、施設内容により同等の利用が見込める可能性もあると思った。また、今回の次の建て替えの議論の前等には、周辺自治体との共同運営を考える必要があると思った。

海老名市 13万人

座間市 13万人

綾瀬市 8.5万人